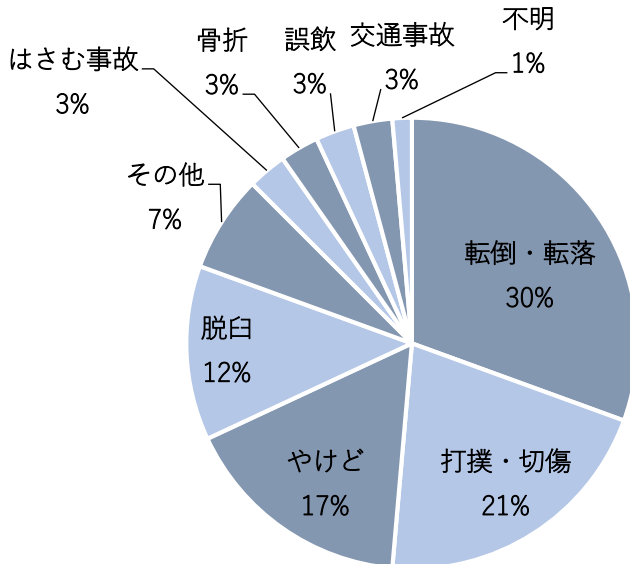


大切です！大人ができる事故予防

1歳6か月までに発生したけがや事故の

内容別割合



左表より、けがや事故の内容で、最も多かったものは、「転倒・転落」です。そして「打撲・切り傷」「やけど」と続きます。

子どもの周囲の大人たちが、子どもを取り巻く環境にちょっとした注意を払うことで防げる事故があります。

どのような点に注意を払えばよいでしょう。

(平成30年10月から令和元年9月までの1歳6か月児健診での調査)

☆「落ちた」原因、状況は様々。

ベビーカー、だっこひも、ベビーベッド、階段、だっこしている手から・・・など家庭内のあらゆる場所で転倒・転落は起こっています。



確認しよう！ 「転倒・転落（溺水）予防」

- ①ベビーベッドの柵は必ずあげ、ソファに赤ちゃんを寝かせない
- ②ハイチェアのベルトは必ず締める
- ③階段や段差は必ず転落防止策をする（ベランダや窓の近くに踏み台になるようなものを置かない）
- ④スプーン、歯ブラシなどを口に入れたまま歩かせない
- ⑤お風呂場の鍵はかける

☆やけどの原因の多くが家庭内の身近な家電製品

アイロン、ポット、ストーブなどによるやけどだけでなく、アツアツのスープに手を入れてしまった、こぼして手や足に汁がかかったなど、食事中のやけども多いです。

好奇心やチャレンジ精神が旺盛だからこそ、家庭内に潜む危険と隣合わせなのです。



やけどの原因になる物

火や爆発によるやけど



やけどの原因になる物

熱い物に触れる



やけどの原因になる物

湯や蒸気に触れる



確認しよう！ 「やけど・感電予防」

- ① 上記を参考にやけどの危険性があるものは片付ける（すぐ片付ける。さわれないようにガードする）
- ② テーブルクロスを使用しない（端をひっぱり上に置いてあるものが落下する危険あり）
- ③ 入浴中、蛇口に子どもを近寄させない（シャワーの温度は必ず確かめてから使用する）
- ④ 湯たんぽ・カイロ・ホットカーペット・電気毛布などは長時間使用しない（低温やけど予防）
- ⑤ 台所には赤ちゃんを入れない工夫をする

☆「窒息」「誤飲」事故 子どもは身のまわりのものに常に興味津々。

目についたもの、手に触れたものは何でも口に入れるようになります。

化粧品、薬、お金、指輪、針、電池、おもちゃの玉、布絵本のパーツ、接着剤、値札など、後で片付けよう…とちょっと置いた物が、思わぬ事故を起こすのです。



確認しよう！ 「誤飲予防」

- ① 赤ちゃんの口に入るサイズのもは片付ける
- ② アルコールやコーヒーなどの飲み残しを放置しない。
- ③ 空き缶を灰皿がわりにしない
- ④ たばこや灰皿、化粧品、薬等口に入れたら危ないと思うものは床から1メートル以上の子どもの目から見えにくい場所に置く